

2024
BEST
FACULTY
MEMBER



University of Tsukuba

2024 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	明石 純一	教授	1
人文社会系	寺内 大左	准教授	2
人文社会系	秋山 肇	助教	3
ビジネスサイエンス系	渡邊 絹子	准教授	4
数理物質系	小島 隆彦	教授	5
数理物質系	丸本 一弘	教授	6
数理物質系	羽田 真毅	准教授	7
システム情報系	川島 宏一	教授	8
システム情報系	櫻井 鉄也	教授	9
システム情報系	谷口 守	教授	10
生命環境系	津村 義彦	教授	11
生命環境系	野村 暢彦	教授	12
人間系	岡 典子	教授	13
人間系	濱田 博文	教授	14
体育系	高橋 英幸	教授	15
体育系	辻 大士	助教	16
芸術系	宮原 克人	准教授	17
医学医療系	櫻井 武	教授	18
医学医療系	濱田 洋実	教授	19
医学医療系	前野 哲博	教授	20
医学医療系	松崎 一葉	教授	21
図書館情報メディア系	関 洋平	教授	22
計算科学研究センター	大須賀 健	教授	23
計算科学研究センター	清水 則孝	准教授	24
生存ダイナミクス研究センター	岩崎 憲治	教授	25
生存ダイナミクス研究センター	深水 昭吉	教授	26

明石 純一 教授

所属 人文社会系

専門分野 政治学
国際関係論



— 業績 —

世界と日本の国際人口移動を対象とする研究論文が、4冊の学術書・学術雑誌に掲載・刊行された。また、研究代表者として科研費基盤研究（B）及び挑戦的研究（開拓）を遂行するなど、人文社会系教員の目指すべき一つのモデルを示したほか、複数の研究学会の役員として、日本の社会科学分野の発展に貢献した。

学内においては、社会学類長やTEACHプログラム運営委員長を務め、学外においては、内閣官房教育未来創造会議有識者構成員等、複数の有識者委員を意欲的に務めるとともに、移民政策研究の専門家として学会やシンポジウムで招聘講演を行った。

略歴

筑波大学大学院人文社会科学研究科助手、助教、人文社会系准教授等を経て、令和3年12月より現職。令和4年4月～現在、社会・国際学群社会学類長。

寺内 大左 准教授

所属 人文社会系

専門分野 文化人類学・民俗学
自然共生システム
社会・開発農学
地域研究



— 業績 —

令和5年に刊行した単著『開発の森を生きる—インドネシア・カリマンタン 焼畑民の民族誌』（新泉社）が学術的に高く評価され、同年度に第13回地域研究コンソーシアム賞（登竜賞）および第27回国際開発研究大来賞を受賞した。さらに令和6年度には第7回環境社会学会奨励賞（著書の部）を受賞し、本書を中心としたこれまでの研究成果が「カリマンタンの森林保全と農村開発に関する学際的地域研究とその新展開」として評価され、第39回大同生命地域研究奨励賞を受賞している。

略歴

日本学術振興会特別研究員PD、京都大学東南アジア研究所研究員、東洋大学助教を経て、令和3年4月より現職。

秋山 肇 助教

所属 人文社会系

専門分野 平和研究
憲法
国際法
国際機構論
無国籍



— 業績 —

国際法、平和研究等の視点を中心として、書籍や論文の発表、招待講演等多くの成果をあげたほか、多数の学群科目担当及び学群生・大学院生の研究指導を展開した。

学内においては、学長補佐を務めたほか、地球規模課題学位プログラム、創基151年筑波大学開学50周年記念式典実施プロジェクト委員会等で各々の運営に大きく貢献した。

学外においては、憲法理論研究会事務局員、文部科学省科学技術・学術政策研究所専門調査員等を務めた。

略歴

日本学術振興会特別研究員DC1、立命館大学国際関係学部嘱託講師を経て、令和2年3月より現職。令和5年4月～現在、学長補佐。

渡邊 絹子 准教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 社会法学



— 業績 —

労働法・社会保障法分野の研究を通じて得た知見をもとに、厚生労働省の各種部会・委員会において多くの職責を担当し、千葉県や国民年金基金連合会の各種委員なども受任している。

中でも、社会保障審議会企業年金・個人年金部会部会長代理、労働政策審議会障害者雇用分科会分科会長代理として、国立大学教員に期待される研究成果の社会還元観点において、国家行政・地方行政・公益法人活動という公的社会事業に大きく貢献している。

略歴

東京大学COE拠点形成特任研究員、東海大学法学部専任講師、専任准教授を経て、平成27年4月より現職。

小島 隆彦 教授

所属 数理物質系

専門分野 錯体化学
生体関連化学
グリーン・環境化学
触媒化学



— 業績 —

天然ガスの約9割を占めると共に、社会的な課題となっている温室効果ガスの一つとして知られるメタンを、汎用性の高い化学素材となるメタノールへ高効率かつ高選択的に穏和な条件下で変換する触媒の開発に成功し、その成果はNatureに掲載され、世界中の研究者の注目を集めた。

また、Journal of the American Chemical Societyなどの国際学術雑誌に、6報の論文成果を発表している。

さらに、科研費学術変革領域研究（A）の計画研究（班長）など複数の外部資金を獲得している。

略歴

東京大学工学部卒、東京大学大学院工学系研究科修了後、ミネソタ大学博士研究員、九州大学大学院理学研究院助手、大阪大学大学院工学研究科准教授等を経て、平成20年12月より現職。

丸本 一弘 教授

所属 数理物質系

専門分野 磁性・超伝導・強相関係系
応用物性



— 業績 —

世界で初めてオペランドESR法を開発し、その手法を用いて有機太陽電池やトランジスタ等の動作中におけるスピン挙動や電荷状態を初めて微視的視点から明らかにした。

また、JST未来社会創造事業などの大型予算を獲得し、学内外の共同研究を積極的に展開することで、本学のプレ戦略イニシアティブ事業として高機能高性能有機無機スピントロニクス開発の研究拠点形成に代表者として尽力し、更に、拠点を拡張した学術センター「有機無機量子スピサイエンス・テクノロジー研究センター」を発足させている。

略歴

日本学術振興会特別研究員、名古屋大学大学院工学研究科助手、筑波大学大学院数理物質科学研究科助教授等を経て、令和4年6月より現職。

羽田 真毅 准教授

所属 数理物質系

専門分野 半導体・光物性・原子物理



— 業績 —

JST創発的研究支援事業を継続的に遂行するとともに、科研費基盤研究（B）等を代表者として獲得し、物質に光を当てた時に、物質中の原子や分子がどのように変化していくのかを1兆分の1秒の時間で観測する手法を開発している。この手法を用いた研究成果は、Nature Communications等に掲載された。

また、共同研究者とともに行った「超高速動的構造観測装置開発と光機能物質開拓への応用」が高く評価され、第23回「一般財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞」を計測評価分野において共同受賞した。

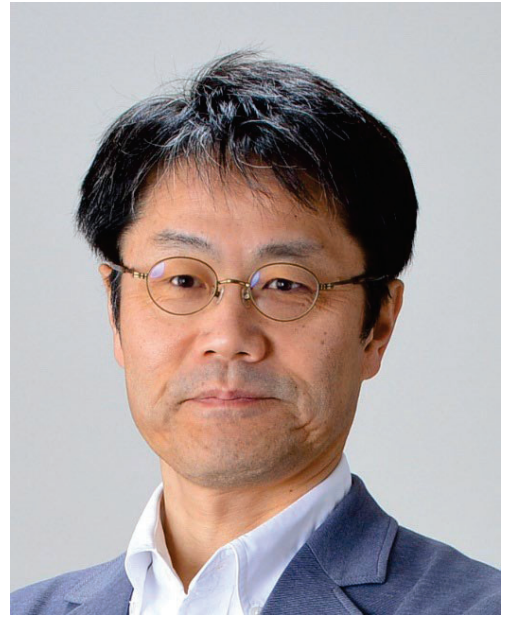
略歴

Max Planck Institute for the Structure and Dynamics of Matter上級研究員、東京工業大学応用セラミックス研究所専任研究員、岡山大学大学院自然科学研究科助教等を経て、平成31年1月より現職。

川島 宏一 教授

所属 システム情報系

専門分野 オープンデータ政策、社会システム工学・自治体経営・都市計画



— 業績 —

数理・データサイエンス・AI（MDA）教育推進室長として、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」拠点校である本学のMDA教育を牽引し、修了認定者の輩出や多くの企業等との協力実績を残すなど特筆すべき貢献をしてきた。また、大学改革支援・学位授与機構「大学・高専機能強化支援事業」の立ち上げにも貢献した。

学外においては、総務省参与として、地域情報化政策の方向性について助言を行うなど、データサイエンス関連分野において、多大な貢献をしている。

略歴

国土交通省住宅局、インドネシア共和国住宅担当国務大臣アドバイザー、北九州市都市計画局開発部長、世界銀行東アジア大洋州局上席都市専門官、佐賀県CIO等を経て、平成27年4月より現職。

櫻井 鉄也 教授

所属 システム情報系

専門分野 人工知能、数値解析学、
数理アルゴリズム



— 業績 —

人工知能科学センター長として海外研究機関との連携強化に努め、ジョンズ・ホプキンス大学などの世界トップレベルの大学とのAI関連研究の強固な連携体制を構築し、筑波大学をAI研究における国際的なハブ拠点にすべく多大な貢献をした。

また、複数の学位プログラムやセンターの運営委員を務めたほか、サイバーメディスン研究センターにおいては副センター長として、センター設立にも大きく貢献した。

略歴

名古屋大学工学部助手、筑波大学電子・情報工学系講師、助教授等を経て、平成17年12月より現職。平成29年4月～現在、人工知能科学センター長。放送大学客員教授。

谷口 守 教授

所属 システム情報系

専門分野 都市・地域計画
環境計画
交通計画



— 業績 —

13本の査読付学术论文、著書2件を公表し、そのうち格差問題に切り込んだ新規研究が都市計画学会より年間優秀論文の評価を得た。また、指導学生が学長表彰や研究群長表彰、筑波大学校友会賞、その他複数の賞を受賞し、指導学生のうち1名が日本学術振興会特別研究員（DC1）に採用されるなど、研究・教育両面において優れた実績を挙げている。

環境省、国土交通省や茨城県など学外の委員会も担当している。

略歴

京都大学工学部助手、カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員、筑波大学社会工学系講師、岡山大学環境理工学部講師、助教授、教授等を経て、平成21年4月より現職。

津村 義彦 教授

所属 生命環境系

専門分野 森林遺伝学



— 業績 —

森林遺伝学・分子生態学を専門として、査読付学術論文7編を公表し、海外での招待講演を1件実施した。これらの研究成果は国内外で高く評価され、内閣府の第17回みどりの学術賞を受賞した。教育面においては、学類及び複数の学位プログラムの主・副担当を務め、多くの授業を担当し学生指導に貢献した。

また、山岳科学センター長としてセンターの運営・活性化に尽力したほか、複数の学外委員やコーディネータを務めるなどしている。

略歴

日本学術振興会特別研究員、筑波大学農林学系助手、森林総合研究所主任研究員、室長、領域長などを経て、平成26年11月より現職。令和2年4月～現在、山岳科学センター長。

野村 暢彦 教授

所属 生命環境系

専門分野 応用微生物学



— 業績 —

微生物間相互作用やバイオフィーム形成、さらには微生物と動植物との相互作用に関する研究等を幅広く展開しており、Scienceをはじめとした科学誌に査読付学術論文10編、著書1編を公表している。

また、科研費基盤研究（S）及び科学技術振興機構「革新的GX技術創出事業（GteX）」を獲得したほか、8件の国内招待講演を実施している。

学内においては、微生物サステナビリティ研究センター長として、センターの運営に多大な貢献をした。

略歴

筑波大学応用生物化学系助手、講師、大学院生命環境科学研究科助教授等を経て、平成25年4月より現職。令和4年4月～現在、微生物サステナビリティ研究センター長。

日本バイオフィーム学会理事長（現職）、JST ACT-X「環境とバイオテクノロジー」領域 研究総括（現職）

岡 典子 教授

所属 人間系

専門分野 教育学
ヨーロッパ史・アメリカ史



— 業績 —

「障害とは何か」という本質的な問いを追求する学問である障害原理論を専門とし、ナチス期ドイツで一般市民が行ったマイノリティ（ユダヤ人、障害者等）救援の実態と彼らの行動がもつ現代的意味を明らかにしてきた。その研究成果を学術書『沈黙の勇者たち—ユダヤ人を救ったドイツ市民の戦い—』（新潮社）として公表した。

本著書は、複数の新聞の書評や取材記事、ラジオ番組で取り上げられ、日本の文学界や学術界で高い評価を受けている第27回司馬遼太郎賞を受賞した。

略歴

福岡教育大学教育学部講師、東京学芸大学教育学部講師、助教授、筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授等を経て、平成26年6月より現職。

濱田 博文 教授

所属 人間系

専門分野 学校経営学
教師教育学



— 業績 —

2つの科研費基盤研究（A）の研究代表者として、校長のリーダーシップに関する研究を積極的に推進し、2冊の編著書を含む3冊の学術図書で論文を刊行するとともに、専門領域の学会誌に論文が掲載されている。この業績の中には、日本教師教育学会会長として研究を先導し、学会による研究成果を世に問う形で刊行された書籍も含まれている。

また、日本高校教育学会会長、日本教育学会事務局長（副会長）や日本教育経営学会理事、日本学術会議連携会員等を務め、専門領域の学界に対し大きく貢献した。

略歴

日本学術振興会特別研究員、鳴門教育大学学校教育学部助手、東京学芸大学講師、助教授、筑波大学教育学系講師、助教授等を経て、平成20年7月より現職。

高橋 英幸 教授

所属 体育系

専門分野 スポーツ医学
運動生理学



— 業績 —

代表者として基盤研究（B）を含む複数の科研費を獲得し、4報の査読付英文学術論文発表、1件の学会シンポジウム講演、7件の学会一般発表を行ったことに加え、スポーツ庁の委託事業である「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」を継続して受託し、他組織の教員等と連携した研究をマネジメント・推進した。

また、ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター長として尽力したほか、スポーツ医学学位プログラムリーダーなどを務め、学内運営に貢献した。

略歴

筑波大学体育科学系助手、日本スポーツ振興センター主任研究員・部長等を経て、令和2年10月より現職。令和3年4月～現在、人間総合科学学術院人間総合科学研究群スポーツ医学学位プログラムリーダー。令和4年4月～現在、ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター長。

辻 大士 助教

所属 体育系

専門分野 健康増進学
運動・スポーツ疫学
公衆衛生学



— 業績 —

研究面においては、疫学・予防医学に関する査読付学術論文21編（うち国際誌19編、IF3以上15編）を発表したほか、国内学会シンポジスト3件、日本公衆衛生学会奨励賞などの受賞5件（うち代表受賞2件）の業績を挙げている。また、教育面では、スポーツウエルネス学学位プログラムにおいて前期・後期合わせて8名の学生を指導するなど、研究・教育両面において優れた実績を挙げている。

略歴

日本学術振興会特別研究員、ユヴァスキュラ大学ジェロントロジーリサーチセンターポスドクフェロー、千葉大学予防医学センター特任助教等を経て、令和2年3月より現職。

宮原 克人 准教授

所属 芸術系

専門分野 芸術学・芸術史・芸術一般



— 業績 —

漆芸家として、漆芸品制作のほか、漆素材を用いた彫刻作品やインスタレーション、パブリックアートなど多岐にわたる制作を行い、会津漆の芸術祭において連続して展示されるなど、高い評価を得ている。また、まちづくりや漆器を用いた地域活性化の活動にも継続して貢献している。

監修を行った『都道府県別伝統工芸大事典』（あかね書房）は、全国学校図書館協議会の第25回学校図書館出版賞特別賞を受賞した。

また、各地の美術館やイベントにおいて、つくば市の伝統的産業であったほうき作りに着目し、ワークショップ33回、展覧会6回を行い、学生が社会から学ぶ機会を創出している。

略歴

東京芸術大学美術学部非常勤講師、筑波大学大学院人間総合科学研究科講師等を経て、平成25年4月より現職。

櫻井 武 教授

所属	医学医療系
専門分野	視床下部 神経ペプチド 摂食行動 睡眠 覚醒 代謝・体温制御



— 業績 —

研究面においては、Science Advances, Cell, Scienceを含む4報の英文原著論文を発表したほか、冬眠様の低代謝状態を誘導する神経機構の解明と応用に関する科研費基盤研究（S）、学術変革研究（A）「休眠と冬眠の作動原理の探求」、およびJST-CREST「離散的な意識の進化：無意識からアプローチする比較生物学的研究」を推進した。教育面においては、医学類の生理学及び行動生理学の基礎コーディネータを務め、他学類を含む学生に、神経科学を学ぶ機会を提供したほか、ニューロサイエンス学位プログラムにおいてプログラムリーダーを務めた。

略歴

筑波大学基礎医学系講師、助教授、金沢大学医薬保健研究域医学系教授等を経て、平成28年4月より現職。令和6年4月～現在、人間総合科学学術院人間総合科学研究群ニューロサイエンス学位プログラムリーダー。

濱田 洋実 教授

所属 医学医療系
専門分野 産婦人科学
胎児・新生児科学



— 業績 —

県内唯一の特定機能病院であり、総合周産期母子医療センターである筑波大学附属病院において、20年近く産科診療の責任者として活動してきた。その間、診療内容の充実・発展及び取扱い分娩数の増加に大きく寄与してきた。

また、我が国初の、自治体との協力による旧国立大学病院内院内助産システムである、つくば市バースセンターの立ち上げと運営において中心的な役割を果たしてきた。

茨城県内の地域医療への貢献も高く、令和5年度に産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞している。

略歴

筑波大学附属病院医員、東京都衛生局主事、筑波記念病院婦人科科長、筑波大学臨床医学系講師、大学院人間総合科学研究科助教授等を経て、平成25年9月より現職。

前野 哲博 教授

所属 医学医療系

専門分野 地域医療教育学
総合診療医学



— 業績 —

日本医学教育評価機構が実施する国際基準に基づく医学教育分野別認証を医学類が受審するに当たり、準備委員会委員長として中心的な役割を果たした。さらに、医学類教育推進委員会や医学教育センター等の設置を実現し、カリキュラムの立案・実施・評価・改善が組織的に機能するシステムの構築に大きく貢献した。また、教育担当副病院長を務め、臨床研修プログラムの充実にも取り組むほか、地域医療教育学分野において、地域医療機関に教員を配置して教育・診療・研究の拠点とする地域医療教育センター・ステーション制度の運営でも中心的な役割を担っている。

略歴

河北総合病院内科医師、筑波メディカルセンター病院総合診療科医師、筑波大学臨床医学系講師、助教授等を経て、平成21年2月より現職。平成30年4月～現在、附属病院副病院長。令和6年4月～現在、医学類医学教育センター長。

松崎 一葉 教授

所属 医学医療系

専門分野 精神医学・予防医学
産業医学・宇宙医学



— 業績 —

国内外の産業精神医学および宇宙医学に関する研究分野で活動を行い、ハラスメント問題に関する疫学調査や特殊環境におけるストレス耐性に関する疫学研究の成果を、中央省庁（特に防衛省・警察庁・内閣官房内閣人事局・人事院・財務省）および民間企業に展開している。宇宙飛行士のISS長期滞在における精神心理的健康管理システムの確立に関する研究において、日本で10年ぶりとなる閉鎖実験をJAXAと共同で実施し、NASA/ESAと連携しながら、宇宙飛行士の選抜基準の策定に貢献した。茨城労働局地方労災医員として労災認定に貢献し、令和3年度に厚生労働大臣表彰を受賞。

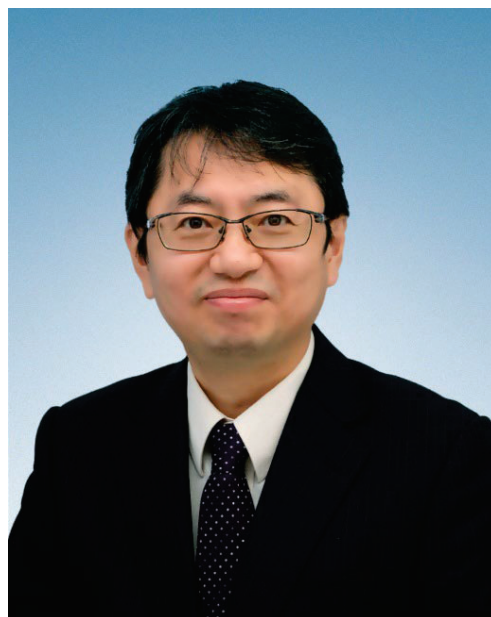
略歴

筑波大学社会医学系助手、講師、助教授等を経て、平成19年10月より現職。平成16年4月～現在、本学の産業医を担当。

関 洋平 教授

所属 図書館情報メディア系

専門分野 知能情報学
図書館情報学・人文社会
情報学



— 業績 —

ソーシャルメディア上のポスト（投稿）を利用した市民意見の分析に関する研究を実施し、市民のポストと市議会会議録のように性質の異なるデータを基にカジノ誘致や保育園運営等の市政に対する意見を比較分析する手法を開発し、国際学術誌に論文を発表した。その他、国際会議に2編、国内誌に2編発表しており、合計5編の査読付論文をいずれも責任著者として発表している。また、環境・社会資本・企業統治（ESG）の観点で企業評価を行う国際ワークショップを運営し、コミュニティ構築にも貢献をしている。

略歴

豊橋技術科学大学工学部助教、筑波大学図書館情報メディア系准教授等を経て、令和7年1月より現職。2008年米国コロンビア大学、2018年シンガポール国立大学 各客員研究員。

大須賀 健 教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 理論宇宙物理学



— 業績 —

Natureをはじめとした雑誌に6編の論文を発表したほか、スーパーコンピュータ「富岳」成果創出加速プログラムの研究開発課題責任者及び科研費基盤研究（A）の研究代表者を務めた。また、教育面においては、14名の学生を指導し、博士課程学生5名のうち4名は日本学術振興会特別研究員であるなど、研究・教育両面において優れた実績を挙げている。さらに、計算科学研究センターにおいて、部門主任を務め、センター長を補佐している。

略歴

日本学術振興会特別研究員、立教大学理学部助手、理化学研究所特別研究員、自然科学研究機構国立天文台助教を経て、平成30年4月より現職。

清水 則孝 准教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理



— 業績 —

原子核の量子多体計算において、大規模並列計算機に適した新たな原子核構造計算手法として、「準粒子真空殻模型」を独自に開発し、スーパーコンピュータ「富岳」成果創出加速プログラムの中で低エネルギー原子核物理グループを取りまとめるなど、当該分野の理論的・数値的研究を推進するとともに、国内外の多くの加速器実験グループと連携し、最新の実験結果の理論計算による検証を行っている。

16本の原著論文を出版しており、酸素28原子核の発見に関する論文は、Natureに掲載された。

略歴

理化学研究所特別研究員、東京大学大学院理学系研究科助手、助教、特任准教授等を経て、令和4年4月より現職。

岩崎 憲治 教授

所属 生存ダイナミクス
研究センター

専門分野 構造生物化学
腫瘍生物学
生体関連化学



— 業績 —

研究代表者として、科研費基盤研究（B）及び挑戦的研究（萌芽）を継続しており、3編の査読付原著論文を発表した。

「生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）」を継続し、クライオ電子顕微鏡施設の運営や、オープンファシリティとしての運用対応を行っている。また、令和5年度から開始した特別共同研究事業において、国内では数少ないmicroED（電子線三次元結晶構造解析）測定・解析システムを立ち上げることに成功している。

略歴

アメリカ国立衛生研究所博士研究員、大阪大学超高压電子顕微鏡センター特任研究員、蛋白質研究所附属プロテオミクス総合研究センター助教授等を経て、平成30年10月より現職。令和5年4月～現在、学長補佐。

深水 昭吉 教授

所属 生存ダイナミクス
研究センター

専門分野 機能生物化学



— 業績 —

AMED-CREST及び科研費基盤研究（A）の2つの大型外部資金プロジェクトを実施し、修飾酵素の機能と遺伝情報発現の解析に関する研究成果を中心に、6編の査読付英文原著論文を発表した。また、「血管調節因子による恒常性機能の解明と組織障害に関する研究」で、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞したほか、学外において、多くの審査や評価委員等を担当し学術全体の進展に尽力している。

略歴

筑波大学応用生物化学系助手、講師、助教授等を経て、平成11年7月より現職。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学BEST FACULTY MEMBER
表彰制度に基づき、2023年度の
教育研究活動において、極めて優れた
業績を上げたと認められ、表彰された
本学教員を紹介しています。

編集・発行／問合せ先
国立大学法人筑波大学
企画評価室
TEL 029-853-2047
Mail ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp